



「ベニスの商人」観劇

9月3日（火）

夏休み明けの2日間で課題テストがありました。テストが終了した本日午後には文化的行事として下妻市民文化会館に場所を移して演劇鑑賞を実施しました。劇団「芸優座」の皆さんによる「ベニスの商人」が上演され、休憩なしの2時間弱を楽しく過ごすことができました。さすがにプロの俳優さんの演技は観客を飽きさせません。笑いがあり、考えさせる場面もあり心に栄養が沁みていくような感覚を味わいました。勉強に疲れた生徒達も舞台と一体となって楽しんでいる様子が窺えました。

劇中でのやりとりを通して、人にとって本当に大切なものは何かという問いが投げかけられていると感じました。

個人的にも夏休みの疲れが癒やされました。それにしても16世紀に活躍したシェークスピアの書いた劇は現代にも十分通用するということを改めて認識しました。彼の人間に対する観察力はすばらしいと思います。芸優座の皆さん有り難うございました。



The Merchant of Venice (ベニスの商人)に出てくる言葉

“pound of flesh”

シャイロックが要求する” pound of flesh” は、1 ポンドの肉(お肉 454g)という意味ですが、この作品から、厳しく取り立てられている借金、法的だが理不尽な賠償という意味も生まれたようです。

All that glitters is not gold

光るものが必ずしも金というわけでは無い。見かけで判断してはいけないということですね。

love is blind

「愛は盲目」。愛する者同士は回りの目を全く気にする事無く、非難の気配などみじんも感じられなくなると言うことですね。